

地域自治支援機能大幅見直し案

市呈示

日吉台新聞

HIYOSHIDAI
平成29年5月1日

発行

日吉台学区自治連合会
日吉台学区まちづくり協議会

発行責任者

林 堅 太 郎

編集責任者

村澤 真保呂

題字は
4-11-2
梶谷清苑さん

平成29年度日吉台学区自治連合会役員

6月目途、住民意見交換会開催へ

市民センター機能の抜本的改革、見直しを検討していた大津市は、3月に開いた大津市自治連合会定例会で、市民センター機能改革の検討方針や考え方をまとめた資料「市民センター機能等の在り方について」を配布、6月以降を目途に各学区で住民意見交換会を開く方針を明らかにした。

市民センターには、現在、支所▽公民館▽地域自治▽防災の4機能が存在している。同市の検討方針によると、各機能の課題として、支所機能は「業務範囲が広範囲かつ多岐にわたり、各市民センターでサービスレベル



ルや業務量にばらつきがある」。公民館機能としては「講座企画について生涯学習専門員の依存が大きい、生涯学習に限定されない幅広い住民ニーズがある」。地域自治機能として「地域内の各種団体等の連携、協力が不十分

市民センター機能の在り方について市民に聞いたところ、支所機能がなくなると遠方まで行かないといけない▽公民館は老人の身近ないこの場▽支所はサービス低下にならないように▽マイナンバー制度で行政手続き、各種証明書発行業務がなくなるので再編できるのでは▽支所に集まる仕組みを考えて施設を集約すべきなど、現状維持を訴える考えや施設再編を求める声など、寄せられた意見は幅広かったという。同市は、課題をもとに

各機能ごとに在り方方針を検討した結果、支所は、施設のキャパシティ、交通アクセス、業務量、市

民の声を勘案して現在の36支所を集約化統合させて基幹支所を設置、基幹支所まで距離が遠く交通アクセスが乏しい地域には、縁辺部支所を設ける方針を明記した。集約化に伴い行政サービスの低下を補うため証明書のコンビニ交付等の代替サービスを検討する、などとした対応策も記述した。基幹支所については、都市計画、防災、教育、福祉、などのさまざまな行政サービスを応じた圏域を7か所程度と想定して

いる。公民館機能については、生涯学習の場、市民の集う場として集約せず存続させる。存続にあたっては地域が自由、かつ主体的に管理、運営できるようにコミュニティセンター化、地元移管を検討し、複数学区を対象にモデル事業として実施する。モデル事業で業務改善や見直し、運営ノウハウを蓄積し、モデル事業以外の他地域へも公民館の地元移管、自主運営を拡大させる方針を示した。防災機能については、

地域の防災拠点としての役割を担うため集約せず存続させる。地域自治機能については、地域住民が主体的に活動できる地域拠点として集約せず存続する、とした。しかし、市民センター再編、集約化に伴い、これまで支所が行ってきた地域自治に関する機能が低下するのは避けられず補完対処策として市は代替機能を検討する。住民に対しても地域の全住民が参加する地域自治組織設立を検討してもらい、地域の課題は地域で解決

する「住民主体のまちづくりの展開」を呼びかけ、これまでの自治会組織に代わる「（仮称）まちづくり協議会」の設立を提言している。市が考える「まちづくり協議会」は、地域の自治会を基盤にした住民主体の住民自治組織。その地域の全住民、事業所、各種団体を包括しその地域を代表する組織として定義している。日吉台学区にはすでに「まちづくり協議会」があり、活動しているが市が提唱する「まち協」とは別組織。

お知らせ
紙面の都合上漫画「ひよちゃん」は木載しました。
日吉台新聞編集部

29年度学区自治連総会開催

総会で地域功労者表彰



総会に出席し、表彰状を手に記念撮影する地域功労者のみなさん

平成29年度日吉台学区自治連合会通常総会が4月16日、日吉台市民センターで開かれ、28年度活動報告、同収支決算報告、

29年度活動方針などを原案どおり承認、野々口義一学信会長再任などの29年度学区自治連役員を選任し

平成29年度日吉台学区自治連合会役員				
役職名	氏名	自治会	担当	
会 長	野々口 義信	日吉台自治連担当役員	文化祭	
副 会 長	宮前 文孝	三東自治連担当役員	学区運動会	
	浅田 一夫	二北自治連担当役員	夏まつり	
	飯塚 利子	一北自治連担当役員	福祉まつり	
事務局長	加藤 達雄	一北自治連担当役員		
会 計	秋本 剛夫	四西自治連担当役員		
事務局長	蛸子 敬三	二南自治連担当役員		
連合会生委員	西 治彦	一北自治連担当役員		
書記・広報	北村 彰	一南自治会		
	堀川 俊行	二南自治会		
	堀中 徳廣	二北自治会		
	片岡 弘	三東自治会		
	市川 泰博	四西自治会		
	川口 厚美	一北自治会		
監 事	杉山 孝三	三西自治会		

平成29年度 地域功労者		
(敬称略、順不動)		
氏 名	活動分野	功 績 概 要
岡田 健 (一丁目北自治会)	防災等	昭和56年に日吉台に入居以来、長年にわたり消防活動に従事し、日吉台消防分団長として消防防災活動に努めたほか、現在も防災活動や日吉台小学校児童の登下校時の見守りなどのほか、自治会での各種活動においても積極的に活躍されている。
黒井 志穂 (三丁目西自治会)	その他(子育て応援)	日吉台在住14年となるが、幼児・児童教育の必要性を痛感し、まちづくり協議会子育て応援隊のリーダーとして、小学校での「マナビバ」や幼稚園の「アソビバ」を通じて多様な取り組みのほか、日吉台幼稚園の園児減少による統廃合を見越して、保護者の意向を反映した認定子ども園の実現に大きな存在感を示されている。
田島 久義 (自主防災推進会)	防災	平成17年度の日吉台自主防災推進会の設立当初から12年間にわたり、毎月の夜間パトロールや小学校児童の登下校時に大の散歩での毎日の見守り、小学校校舎周辺の樹木の剪定作業など、地域の安全活動に積極的に参加し、安全で安心できるまちづくりのため日々活躍されている。
西山 勝治 (社会福祉協議会)	福祉	平成23年から社協運営委員として多様な活動に参画するとともに、平成25年からは社協の「日吉台さえあいの会」幹事として、活動の中心的メンバーとなって、住民からの様々な依頼に対して全力で取り組まれている。
土屋 和子 (民生委員児童委員協議会)	福祉	平成19年12月に民生委員協議会に就任以来、4期目となる現在も独居高齢者をはじめ、子育て家庭等の相談・見守り活動に熱心に取り組むほか、学区社協の運営委員として、住民ふれあいの場としてのふれあいサロンややすこやかサロン等にも積極的に取り組まれている。
大浦 紗江 (青少年育成学区民会議)	青少年育成	平成13年度から学区民会議事務局長として、平成17年度からは事務局員として、「花のまちづくり」「かるた大会」「愛のパトロール」「あいさつ運動」等に取り組むほか、夢未来事業推進委員会と連携した「もちつき大会」「どんと焼きまつり」「ラジオ体操」の各種事業にも積極的に活躍されている。
高石 正明 (老人クラブ連合会)	福祉	平成24年4月の日吉台げんきクラブ発足以来、班長・会計長・事務局局長を歴任し、現在も老人クラブ連合会理事として、自ら先頭に立って高齢者の健康増進に寄与する各種活動に積極的に活躍されている。

た。野々口会長は29年度活動方針提案のなかで「市は、市民センター機能、公民館の地元移管などを検討、今年度中に提案してくる可能性が高く学区住民にとって地域住民の活動、暮らしに大きな影響を与える。これら提案される改革案の内容についてしっかりと研究、検討し、将来の日吉台に悔いのない結論を求めるべく住民の皆様と議論をお願いしたい」と述べた。

学区自治連合会は、29年度地域功労者として、1丁目北、岡田健さん▽3丁目西、黒井志穂さん▽自主防災推進会、田島久義さん▽社会福祉協議会、西山勝治さん▽民生・児童委員協議会、土屋和子さん▽青少年育成学区民会議、大浦抄江さん▽老人クラブ連合会、高石正明さんの7人を選び、29年度学区自治連通常総会の席上、表彰した。

着任しました



日吉台支所
秦 信成



日吉台支所
瀬津 浩史



日吉台支所長
瀬井 敦



日吉中学校校長
田中 学

前任は、2年間真野支所長として勤務。それ以前は高齢者福祉や介護関係に13年間勤務しておりました。日吉台学区は超少子高齢化社会が現実になっている地域で、それに伴う課題も数多くあることが容易に想像できます。

前任の大津市役所市民税課から異動してきました。市民センター勤務は初めてで、地域の実情については十分把握できておりません。そのため最初のうちは地域のみなさんに「迷惑をおかけするかもしれない」と思っていました。

29年度採用で着任しました。市民センター、公民館の業務は初めてで、一生懸命精進してまいります。地域のみなさまのお役に立てるようにやさしい笑顔で親切的な対応をしてまいりますよう心掛けます。おもてなし

日吉中学校には、平成10年から10年間お世話になりました。子どもたちの人なつこき、地域の方々の熱い支援は今も変わっておらず強い限りです。思い出深い本校に縁があり、再び勤務できることを心より喜んでおります。

前任は、2年間真野支所長として勤務。それ以前は高齢者福祉や介護関係に13年間勤務しておりました。日吉台学区は超少子高齢化社会が現実になっている地域で、それに伴う課題も数多くあることが容易に想像できます。

前任の大津市役所市民税課から異動してきました。市民センター、公民館の業務は初めてで、地域の実情については十分把握できておりません。そのため最初のうちは地域のみなさんに「迷惑をおかけするかもしれない」と思っていました。

29年度採用で着任しました。市民センター、公民館の業務は初めてで、一生懸命精進してまいります。地域のみなさまのお役に立てるようにやさしい笑顔で親切的な対応をしてまいりますよう心掛けます。おもてなし

前任は、2年間真野支所長として勤務。それ以前は高齢者福祉や介護関係に13年間勤務しておりました。日吉台学区は超少子高齢化社会が現実になっている地域で、それに伴う課題も数多くあることが容易に想像できます。

前任の大津市役所市民税課から異動してきました。市民センター、公民館の業務は初めてで、地域の実情については十分把握できておりません。そのため最初のうちは地域のみなさんに「迷惑をおかけするかもしれない」と思っていました。

魅力ある学校づくりめざし



田中誠（たなか・まこと）昭和34年9月生。滋賀大大学院教育学研究科卒、昭和57年草津市立玉川小教諭、平成16年市教委指導主事、同23年瀬田東小教頭、同27年日吉台小学校長、京都市山科区西野色町

「日吉台小の子どもたちの印象は、校舎と先生、短所さまで、子どもたちを導いてこれました。2年間子どもたちと接する中で、素直な子どもが多いと感じています。例えば、「あいさつをしつかりしよう」と話す、担任の先生からの指導もあると思いますが、朝や帰りに元気なあいさつが返ってくる。ところが、嬉しく思っている。う課題はありますが、この素直さを大切に、自分の目標に向かって努力し続けられる子どもであって欲しいと願っています。」

「教師の道を志した動機は、また平日頃心がけていることはありますか。子どもたちには明るく元気なで、自分もそうあるべきと考えています。（考えなくても天然でそうかもしれませんが）この教師の道を選んだのは、大学の4年間、地域（山科）の小中学生の宿泊キャンプのサポートをする中で、子ども

子どもたちの未来を

任5回、1年生担任3回と、小学校生活と出会う子どもたち、小学校から集う子どもたち、子どもたちと過ごした1年はどの年の子どもたちも思い出に残っています。特に最後の担任が6年生でしたが、なかなか手強い子どもたちで、卒業の時にそんな子どもたちと「なかなか面白い1年だった」と言葉をお交わしたことを今でも思い出します。

後は、大学勤務3年間に教育実習等で関わった学生たち（現在ほぼ教員となっておりませんが）から、ゼミ担当でもなかったのに、ぜひ来て欲しいという声がありました。

「地域の人は、将来の統合を心配しています。コミュニティ・スクールの構想がでています。どのようなものですか」

「結婚式に呼ばれたときは嬉しかったですね。小学校規模適正化で検討対象校に名があげられました。対象校として校長の思いを差し支えない範囲で教えてください。」

本校に就任して3年目となりますが、児童数が166人（平成27年）157人（28年）143人（29年）と、毎年10名前後の減少が目に見えています。減少を食い止めるため、少人数の学校として、子どもたちのつながりがあること、子どもたちの見守りができることなどの良さも大切に感じています。このまま児童数減が続き、集団の中で学ぶという学校本来のあり方に、何らかの工夫改善が必要ではないかと考えています。その思いから、今年度よりコミュニティ・スクールの指定を受ける決断をしました。



体育館に勢ぞろいする日吉台小の新入生たち

日吉台学区にある市立日吉台幼稚園、日吉台小学校、坂本の日吉中学校で4月中旬、相次いで入学式、入園式があった。

希望を胸に入学、入園式

希望を胸に入学、入園式



日吉台学区自治連合会とまちづくり協議会は、「江若バスに乗りよう」キャンペーンの一つ、日吉台小の子どもたち。

ちから募集した「標語ののぼり」を市民センター前のバス通りに設置した。標語は子どもたちの優秀作品10作品。バス通り沿いを中心に各作品2本、計20本ののぼりを順次設置、住民の足の重要性を訴えている。

日吉中学校の新入生は228人、日吉台小は、20人、3年保育が始まる日吉台幼稚園の新入園児は7人。

新入生、園児らは、希望を胸に桜満開の校、園舎の門をくぐった。

大津市立日吉台小学校（田中誠校長）の入学式が、4月10日行われ、びかびかのランドセルを背負った新1年生は、お父さんやお母さんらに連れられ登校。校門の満開の桜を背景に記念撮影をしたあと式場の体育館へ。「1年生になったら」の歌にあわせて緊張気味に入場したが、会場で新1年生の名前を呼ばれると元気よく「はい」と答えていた。

初めての3歳児を迎えた日吉台幼稚園の寺田賀寿代園長は、年少の3歳児が集中できるようにと紙芝居を用いてあいさつをするなど工夫が一杯。式の間は静かにちよこんと座っている子ども達に、来賓からは温かい眼差しが送られていた。式が終わりになるころ行われた先生らのぬいぐるみ劇では、緊張していた顔が一気に緩み、笑顔で一緒にチューリップを歌うなど、新たに始まる幼稚園生活を楽しみにしている様子だった。